

SS2009 ポジションペーパー

系列製品開発のための再利用について

鈴木 郁子

シャープ株式会社

Suzuki.ikuko@sharp.co.jp

1. 自己紹介

ソフトウェアとはほぼ無縁な学生時代を過ごした後、ふとしたことから職業として拘わるようになりました。開発の対象は、業務系システム、CG/CAD/CAE 等の設計支援システム、そして製品組込みのソフトウェアと変遷してきましたが、基本的にはソフトウェアを企画し、設計し、開発し、評価するのが好きです。

御多分にもれず、私もいつしか「管理」とよばれる業務の比率が増えてまいりましたが、何時になっても興味が尽きないのが「人間」ですから、そのこと自体は苦勞であっても苦痛ではありません。(もちろん、管理される方々の苦痛は別でしょうが...)

2. 討論したい内容

本WG「系列製品開発のための再利用」は、昨年までのWG「組込みソフトウェア」の名称を変えて、近年の議論の中心となった「プロダクトライン開発手法」に焦点を当てたWGです。組込みの冠を外したのは、あらゆるシステムは人々の生活環境に組み込まれて、変化しつづけるものであり、系列化されるのは製品組込みソフトウェアとは限らないからでしょう。狭義の組込みソフトウェアに限定すると、日本固有の苦勞話に流されがちでしたが、これで本質的な議論ができるものと期待しています。

ソフトウェアの変化(本当は進化と呼びたいのですが)を、“効率的かつ高品位”に実現するために、「プロダクトライン開発」に少なからず期待が寄せられています。私も、世間の耳目を集める前はかなり以前に、産官学のプロジェクトで議論したことがあります。しかし、未だにすんなりと受け入れられません。

どうも、「効率」と「高品位」が安直に「工数」と「不具合」に置き換えられており、その結果、ワクワクとする「ものづくり」や魅力あるシステム/製品が議論されていないように感じます。であれば、利潤を優先する取り組みにしかならないように危惧します。そこには人間的な開発もないでしょう。

3. WS に期待すること

日頃の喧騒から離れてじっくりと議論をする事が、札幌をSS2009の開催地として選んだ1つの理由だとか。しかも、北の大地のような広い視野で多様な分野の多才な方の講演が揃っている今回のソフトウェアシンポジウムですので、私の疑問を解く手掛かりが見つかりそうな予感がします。

初日の招待講演でさらに知見をひろげ、2日目からのディスカッションで例年以上に活発な意見交換ができるものと期待します。